

あべともこニュース



情報公開と国民への説明責任を！

◆77万人分マイナ保険証使えない！

開いた口が塞がらないとはこのこととです。8月24日、厚生省はマイナンバーと医療保険情報が結びついていないケースが約77万人分あると発表しました。8月上旬に中小企業の社員や家族が入る「協会けんぽ」で約40万人（加入者の1%）のひも付け作業が完了していないことが発覚。新たに企業の健保組合、同業者等で組織する国保組合でも未了のケースがあり計77万人分に。

本人や事業主のマイナンバーが保険組合に未提出であることが主な原因であると見られています。「協会けんぽ」のひも付け作業は2016年から開始され、当初からの課題。それを放置したまま、マイナ保険証一本化を強引に進めるとは順番が逆です。

ひも付けが完了していなければ、マイナ保険証を作らせても、それを使って受診ができません。誤ひも付けに、穴あきのひも付け。マイナ保険証への不信は高まるばかりです。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県12区（藤沢市・寒川町）
当選8回、東京大学医学部卒業、
小児科医、あべともこ子ども
クリニック（湘南台）理事長
現在、厚生労働委員会
原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ
公式Twitter
@abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ
公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索

汚染水の処理や処理水放出の流れ



主な放射性物質の種類	汚染水	ALPS処理後	国の放出基準
セシウム134	数千~数十万	検出限界値未満	60
セシウム137	数十万~数百万	0.47	90
トリチウム	数千~数十万	14万	6万

東京電力の資料から、処理後の濃度は6月公表の貯蔵タンク(約9千t)の分析結果
図：朝日新聞、『【そもそも解説】汚染水はどのように処理するのか「ALPS」とは』2023/8/21

◆増え続ける「処理水」の行方は？

8月31日、超党派「原発ゼロ・再エネ100の会」は、同24日より海洋放出が開始された福島第一原発「ALPS処理水」について、東京電力と関係省庁にヒアリングを実施しました。放出はこれから廃炉まで30年かけて実施すると言いますが、その計画は全く不透明。一方、汚染水発生を食止める凍土壁は、当初の想定はずか7年、それ以降も、汚染水は地下水や雨水で増え続けます。

今後、放出後の核種測定データが出てくることになりませんが、第三者のチェックも必要です。トリチウムだけの問題ではありません。

◆寒川をこども子育て最前線の町に！

8月27日投票の寒川町長選挙では「子どもに優しい社会はみんなに優しい社会」を掲げた木村俊雄さんが四期目の当選を果たされました。立憲民主党は、湘南地域連合の皆さんともども、木村候補の推薦を決定。

子ども子育て政策は立憲民主党の第一目一番地であり、住民に一番身近な地方自治体の手腕が問われます。全国で、その先頭を走っているのが明石市です。寒川町も頑張って18歳までの医療費の無料化や、コロナ禍での子育て家庭の負担増に対し所得制限のない一時給付金を実現。町営プールのリニューアルオープン、給食センターの開所で小中学校の完全給食の実現などの取り組みも。これらは町民の健康づくりや高齢者への配食にも繋がることでしょう。立憲民主党の自治体議員と力を合わせて、私も国政でしっかり頑張ります。

あべともこ後援会入会及び、ボランティアスタッフ募集中！



木村町長のさらなるご活躍にご注目ください！